看護職の再就職を応援する情報誌
TOKYOナースプラザ Vol. 51 2010.3.1

やっぱり看護が好き

座談会
やっぱり看護が好き
看護研究の楽しさと喜び

Interview これからの看護
仕事は生活の重要な一部
いま看護のすべてが興味深い

おすすめ研修
平成22年度の研修について（ご案内）

取材記事
一日看護体験学習

東京都ナースプラザ

仕事は生活の重要な一部 いま看護のすべてが興味深い

山田 喜久子さん
医療法人財団 荻窪病院 前副院長・看護部長

中学時代から「手に職をつけなさい」といわれてきた山田喜久子さん。職業として看護師を選びました。手に職をつけることを勧めてくれたお母様は、終戦で海外から引き上げて来た際、仕事がないという経験をされたのだそうです。仕事、子育てと、無我夢中で多忙な日々を駆け抜けてきた山田さんが、看護にじっくり向き合おうと思ったのが39歳のとき。看護研修学校での1年間をきっかけに、仕事の楽しさを実感するようになりました。

看護師として、「相手に必要とされる人間になることを心がけている」という山田さん。相手とは、患者さんや一緒に働いている職員のことで、「いくら専門的知識や技術があっても、行動しないと活かせない」と考えるからです。

組織全体でそれを実践するために、一昨年から教育専任看護師を副部長として迎え、"自己教育力を備えた感性豊かな看護師の育成"という教育方針に沿ってスタッフの学ぶ姿勢を応援しています。

新入職者に対してはプリセプターシップを廃止し、精神的サポートをする看護師を1人、技術的サポートをする看護師を複数人決めて、お互いが負担にならないようにチーム全体で育成しています。さらに、クリカルラダーシステムや目標管理システムもとり入れ、一人ひとりのレベルに合った教育を行っています。

「ゴールを明確に示したことで、一人ひとりが目標の具現化に向けて取り組むことができるようになりました。教育体制の整備はモチベーションを上げるきっかけにもなっています」

現在は管理者として病院経営の中核を担っている山田さんですが、自宅と保育園、病院への往復で慌ただしい生活を送っていた30代前半までは無我夢中で業務にとり組んできました。そんなある日、内科外来で、とある患者さんと話をしていたところ「怖い」と言われ、大変ショックを受けたことがあります。

「その言葉で、張り詰めて仕事をしていた自分に初めて気がつきました。鏡の前で笑顔の練習をしたことを覚えています」

その後、病棟師長になって病棟管理も見様見真似でこなしたものの、「これではいけない」と一念発起。日本看護協会の看護研修学校で改めて勉強し直しました。

現在では「仕事は生活の重要な一部、看護の仕事のすべてが興味深い」という山田さん。看護の基本は本来、誰もが身につけるべき生活の基本だと考えています。「育児介護休業法にも、子の看護休暇が位置づけられています。たとえば、夜間発熱した子どもを抱っこして救急外来を訪れる若い母親が増えていますが、ある程度までは家庭で対処できるケースが多いのです。核家族化したいま、一般教育の中でそのような知識を学ぶ機会を作れるとよいのですが」

そのためには社会や学校で、看護師が教育者として話をする場が必要かもしれません。

同院では昨年10月から看護復職支援研修も実施しており、第1回と2回を合わせると、20代から60代までの計10名が受講しています。

「看護師の仕事は多岐にわたりますので、いろいろな場で活躍することができます。研修などを通じて現在の医療現場を知ることで、復職の自信にもつながるのではないでしょうか。国家資格は社会資源でもあり、ぜひ取得した資格を活かしていただきたいと思います」

●プロフィール

山田 喜久子（やまだ きくこ）

1977年日本赤十字中央女子短期大学卒業後、日本赤十字医療センターに勤務。86年荻窪病院に入職し、病棟勤務・外来勤務を経て91年に病棟師長。94年に日本看護協会看護研修学校管理専攻修了、厚生省認定看護教員養成課程修了。97年から荻窪病院副看護部長を兼任し教育を担当。2000年看護部長に就任。03年日本看護協会認定看護管理者。07年から08年には副院長を兼任。現在に至る。

平成22年度の研修について（ご案内）

平成21年度の研修は多くの皆様にご参加いただき、無事に終了しつつあります。参加された方々からの評価は非常に高く、今後も現在の路線を継承しつつ、さらなる充実・発展を目指しております。

平成22年度もまた、再就職を考えている看護師の職場復帰意欲を高めるとともに、中小規模の病院や社会福祉施設に勤務する現場看護師の資質向上につながることを願って、バラエティに富むプログラムを用意いたしました。さらに、平成21年7月に「保健師助産師看護師法」「看護師等人材確保法」の一部改正に伴なって看護職に課せられた学び続ける責務にも対応し、東京都ナースプラザの研修は時代を先取りし、皆様方のご要望に十分応じられるように務めて参りたいと考えております。看護職の皆様の積極的なご活用をお待ちいたしております。

平成22年度研修全体の特徴

平成22年度研修は、年間43科目、研修総日数延べ254日、受講総定員数3,210人で計画いたしました。主要な研修の柱は以下の4本です。

就業意欲を高める研修

11科目あり、職場復帰へ向けた準備研修、求人施設とマッチングを行う"ふれあいナースバンク"の開催と併せて行う再就業総合研修、そして、どこの職場でも最低限求められる看護技術（診療の補助技術と日常生活援助技術）研修から成り立っています。

資質向上のための研修

最新の知見・技術研修、在宅・地域関連研修、福祉施設研修、看護と安全に関する研修、トピックス研修、看護研究の6分野、23科目で構成しています。研修全体の中で占める割合が最も高く、まさに中小規模の病院や社会福祉施設に働く現場の看護師に役立つ科目が目白押しです。

定着を促す研修

リーダーシップを促す研修のみで構成されており、4科目です。中小規模の病院や社会福祉施設に働くリーダーの方、これからリーダーを目指す方にお勧めです。

看護教育に関する研修

訪問看護師育成基本コース（30日間）、実習指導者研修（40日間）、地域実習指導者研修（7日間）など、より専門性の高い看護人材を育成するために国や東京都から委託されているものです。実習指導者研修は、昨年度から看護師基礎教育のカリキュラムが改正され、1年経過しました。新カリキュラムに沿った効果的な臨床実習指導ができるよう、科目内容の変更とともに講師陣も適宜適切に配し、充実を図りました。

節度あるご利用を

研修受講についてのお願い

東京都ナースプラザの運営に関わる経費は、全額都民の貴重な税金で賄われており、受講者から直接自己負担を求めておりません。無料であるがゆえに、受講が決定しているにも関わらず無断で欠席する、受講の席を確保するために、職場で一括して適当な名前で申し込み、受講希望者と実際に参加される人が違うなどモラルハザードが目に余る状況が散見され、研修運営に苦慮しております。

研修を受けるということは、看護師一人ひとりが、自身に不足している職務能力を高めることです。研修には計画的に参加し、現場で実践する中でまた新たな課題が発生しますので、再び専門家の見解を聞き職場で確認するというのが良い循環を保つ手段であり、本来の姿ではないでしょうか。

東京都ナースプラザの研修申し込み手続きは、個人が自ら申込むことを原則としております。どの研修を受講するかは、職場の上司ともよく相談をして、是非受講希望者ご本人が直接申し込みをしてください。応募者が多く受講できなかった場合は、また来年申し込むようにするなど、節度あるご利用をお願いいたします。

〈出席者〉

黒崎 綾子さん
（社会福祉法人聖ヨハネ会総合病院 桜町病院）

那須 真弓さん
（医療法人社団森山医会 森山リハビリテーション病院）

猫田 泰敏先生 〈特別参加〉
（首都大学東京健康福祉学部看護学科教授、東京都ナースプラザの研修「基礎から学ぶ看護研究」講師）

網野 寛子所長 〈司会〉
（東京都ナースプラザ所長）

座談会

やっぱり看護が好き
看護研究の楽しさと喜び

看護研究は、日常業務の疑問を昇華させる方法であることを知っていますか。

「基礎から学ぶ看護研究」は、苦手意識をもつ方にこそ受講していただきたい研修です。看護研究の楽しさを知ることは、専門職としてのプライドと看護の質の向上に直結しています。

研修の概要と受講の動機

網野 平成21年度、東京都ナースプラザの研修の中に、初めて「基礎から学ぶ看護研究」を入れました。これまで、研究とは何かという講義が主体の研修はありましたが、自分がやってみないと本当の研究は身につかないという意見、自分の力になる研究をしてみたいという要望もあったので、1年間実際に研究していただくということをしてみました。募集定員は5人で、対象者は主に中小医療機関や福祉施設等に勤務する看護職です。事前に研究計画書を提出してもらい、月に1回、専門の先生の指導を受けながら研究を進めていただきました。

今回は6人の方が受講しましたが、その代表として本日は二人の方においでいただき、ご指導をお願いした猫田先生にもご出席をお願いしました。研修は3月までですから、研究は現在も進行中です（2010年1月6日収録）。

まず、最初に、この研修を受けてみようと思った動機からお話しいただけますか。

黒崎 上司からの勧めがきっかけですが、看護研究は苦手だったので、あまり気が進まなかったというのが正直なところです。でも、病院の中で教育委員という立場にあって、研究をサポートしていかなければならない自分が何もわからないのはいけないなという思いと、苦手意識を克服できたら、という思いもありました。今回は、せっかくのチャンスだと思いましたので、受講することにしました。

那須 私も院内の看護研究のチームに参加していて、上司からの勧めがあったのがきっかけです。私も研究についてはよくわからなくて、勧められても不安に思う部分が多かったのです。でも、よく知ることができれば、楽しんでやっていくことができるのではないかと思い受講を決めました。

研究テーマ選択の理由

網野 今回取り組んでいる研究のテーマと、なぜそのテーマを選ばれたのか、簡略にお話しいただけますか。

黒崎 私は高齢者が多い病棟におりますので、高齢者、特に寝たきりの患者さんの看護に対して、病棟スタッフがやりがいを持って取り組めているのかを知りたいと思い、研究テーマに選びました。寝たきりの患者さんは反応が少ないので、スタッフはやりがいを持ちにくいのではないかと日ごろから思っていました。もし、どんなところにやりがいを感じているのか明らかになれば、職場がもっと活性化されるのではないかという思いがあって、取り組むことにしました。

那須 私は回復期のリハビリテーション病棟におり、病棟全体でポジショニングの大切さを重点にあげて取り組んでいます。そこで、ポジショニングが身体能力の改善にどのくらいの効果があるかを評価するという研究テーマにしました。

それぞれの受講生に応じたこまやかな指導

網野 1カ月に1回、ナースプラザにお越しいた

●プロフィール●

黒崎綾子さん
1998年東京慈恵会医科大学医学部看護学科卒業。同年同大学附属第三病院内科病棟に就職。2003年聖ヨハネ会桜町病院（一般病床155床が中心の199床）に再就職。内科病棟の勤務に加え、教育委員としても活躍中。

那須真弓さん
2005年東京逓信病院高等看

猫田先生

らないことをどのように質問したらいいかもわからないというところからのスタートでした。でも、先生が毎回的確なアドバイスをしてくださったので、なんとか順調に進んできたのではないかと思います。現在はまとめの段階まできています。

網野　那須さんはどうですか。

那須　はじめは知らないことばかりで戸惑うところも多かったのですが、毎回、次回までにこのへんを勉強してきてくださいと、具体的なアドバイスをいただいて、わからないながらも少しずつ進めてくることができました。ようやくかたちになりつつあるところだと思います。

網野　猫田先生、お二人を受け持たれてのご感想はいかがでしょうか。

猫田　今回の受講生の中でもお二人は、研究テーマがはじめから比較的はっきりしていたこともあり、順調に研究を進めてこられたと思います。

黒崎さん

那須さん

網野　受講生は社会人ですから、学生が対象の場合と違って一律にはいかないと思います。受講生個々に合わせてご指導いただいているわけですから、先生にもご苦労がおありになったと思っています。

猫田　5月から12月だき、猫田先生から助言を受けて進めてこられたわけですが、順調に進んできましたか。

黒崎　最初は進め方もわからないし、わかまでに8回の指導を行ってきたわけですが、それぞれの受講生に応じた指導を心がけ、その方々にとって次に何が必要なのかを考えるということをやってきました。それは少人数であればこそできる指導方法で、私にとってはやりがいのある指導です。

それぞれの受講生が何らかの問題意識を持ってこの研修に来られたわけですが、それをリサーチクエスチョン（研究疑問）にまとめあげていくまでの過程には時間が必要で、最初の数回を費やす場合もありました。次にそれぞれの方のリサーチクエスチョンに応じた、狭い意味の研究デザインをどう組み立てるかが問題になりますが、この点は研究に関する基礎的な知識がないとなかなかわかりにくい部分です。それぞれの方法によるメリット・デメリットを説明し理解していただきながら、実際のデータを集める段階になったのが12月ぐらいという方もいます。

受講してよかったこと

網野　研究をされるにあたっては、職場のスタッフの方たちの協力が不可欠だったと思います。職場が研究前とは変わってきてよかったなと思うことはありませんか。

那須さんの研究は、病棟全体あるいは病院全体の看護の質的な向上につながる第一歩になる可能性があると思いますが。

那須　研究を始めるにあたっては、病棟のスタッフにも研究内容を伝え、協力を呼びかけました。開始からしばらくは思うようにいかないこともありましたが、最近は、看護師はもちろん看護助手の方にもよくご協力いただけるようになりました。そういう部分では効果が現れていて、よかったと思っています。

網野　黒崎さんは、研究をしてみてよかったと思うことはどんなことでしょうか。

黒崎　今回の研究で私は病棟スタッフにアンケートをとりましたが、スタッフがどういうことを思いながら仕事をしているかということがよくわかりました。自分が思っていたよりも、みんなはやりがいを持って仕事をしていることがわかったことがよかったですし、すごくうれしく思いました。私はそれを盛り上げていかなければならない立場にありますので、その方法を考える、よいきっかけになったと思います。

研究成果をフィードバック

網野　忙しい日常業務をこなしながら看護研究も行うというのはたいへんなことだと思います。苦手意識のあったお二人ですが、今回看護研究に取り組まれてみていかがだったでしょうか。

後列左から猫田先生／網野所長、前列左から那須さん／黒崎さん

網野寛子所長
1968年佐久総合病院高等看護学院卒。同年より臨床経験8年後、77年都立公衆衛生看護専門学校保健学科卒。保健師免許取得し保健所、都庁勤務。87年国立公衆衛生院専攻課程看護コース修了。93年看護職養成に転じ都立看護専門学校長を歴任。2005年東京福祉大学社会福祉学部卒。07年都立板橋看護専門学校長を定年退職。同年4月より東京都ナースプラザ所長。08年明星大学大学院修士課程修了。現在に至る。

猫田泰敏先生
1981年東京大学医学部保健学科卒業。修士課程修了後、昭和大学医学部に勤務。その後、東京医科歯科大学医学部勤務を経て、現在、首都大学東京健康福祉学部看護学科教授。大学では疫学・公衆衛生学を、大学院では地域看護活動評価論を担当する。看護師、保健師、医学博士。日本看護協会保健師職能委員、保助看国家試験委員等を歴任。

護学院卒業後、全仁会上野病院内科に就職。06年、森山リハビリテーション病院（回復期リハビリテーション病棟96床が中心の184床）に再就職し、回復期リハビリテーション病棟勤務に加え、院内の看護研究チームにも参加。

網野所長

黒崎　私のところは小さな病院で病床数も少ないですし、職員も定員を満たしていない現状がありますので、かなり厳しい仕事をこなしながらの研究になります。現場でできることには限界があると思いますが、それでも看護研究をやっていくことは必要なことだと、今回研修に参加してみて思いました。

当院では毎年、各病棟1題ずつ研究し、発表しています。大変でも研究中は病棟全体もまとまりますし、看護の質の向上も図れたということを、スタッフのみんなも実感しています。終わったときの達成感や1年前と比較して変化が評価できたときに、やってよかったと思います。しかし、スタッフのみんなにも看護研究に対する苦手意識が根強くあります。今回私が受講したことで、少しでもみんなにフィードバックできるものがあればいいと思います。

網野　那須さんはどうでしょうか。

那須　今後は研究をさらに一歩進めて、同系列の急性期の病院でもポジショニングに対する取り組みを実践していただけるように提案していこうと思っています。

網野　それは病院にとって画期的なことで、ほかのスタッフにとっても研究のきっかけになりそうなお話ですね。

那須　いままでは病院で働く中で、疑問に思ったことがあっても、疑問は疑問のままで終わってしまっていましたが、今回この研修に参加して研究の方法を学んでいくうちに、ほかの疑問についても研究をしてみたいと思えるようになりました。

看護研究は専門職としてのプライドの拠り所

網野　私たちは毎日の仕事の中で疑問に思ったことがあっても、忙しいからという理由でそのままにしがちです。しかし、ちょっと時を止めて、本当にこのやり方は科学的なのか、合理的なのか、患者さんに対して本当によいことなのかということをきちんと考える、研究的態度が私たち看護師のような専門職には必要だと思うのです。今回の研修が、日常での疑問を振り返るよい機会になればと思います。

看護師が生きがいを持って働いていくためには、どのような職場で働いていたとしても、ある程度、研究的な態度を身につけていただきたいという思いがあって今回の研修を行いました。

猫田　研究的な思考は、専門職が持つべき態度・方向性だと考えています。研究の成果がどのくらい得られたかは別にして、今回のように毎月ディスカッションの機会を持ちながら研究を進めていくことで得られるものは、ふだんの看護活動に何らかのかたちでフィードバックされるものだと思います。

網野　研究をすることによって、最終的には看護師一人ひとりが自分自身でものを考えて判断できるようになることが大事なことではないかと思っています。

猫田　看護は専門職で、療養上の世話においては看護職が独自の判断で行う権限を持っています。その根拠となるものは、文献からのエビデンスもあるでしょうが、自分たちが実施した研究は、自分たちの病院に来る患者さんにとってはベストなエビデンスになるはずです。ですから、いろいろなところでいろいろな方が看護研究を実施されるのはとてもよいことだと思っています。

網野　今回の研修に中小病院から6名の方に参加いただけたということは、それだけ看護の水準が高まってきているということではないかと思っています。「基礎から学ぶ看護研究」は、しばらく継続してやっていきたいと思っていますが、いかがでしょうか。

猫田　私は、普段は学生たちに教えていますが、今回講師をやらせていただいて、現場で研究を実施するうえで、どのような困難を持っておられるのか、あるいはそれぞれの方がどういうところに興味を持って臨床をなさっているかということが、数名の方を通じてではありますが、よく理解できました。この研修はできるかぎり続けて担当させていただきたいと思っています。

網野　平成22年度も同じ研修を予定しております。どうしても人数は限られてしまうのですが、できるだけ多くの方に受講の機会をもっていただきたいと思っています。

本日はどうもありがとうございました。

看護職を目指す中学生・高校生のための

一日看護体験学習

「一日看護体験学習」は学校の夏休みに合わせて毎年実施されており、平成21年度は7月23日(木)から31日(金)までの期間に行われました。中学生用156施設、高校生用127施設が受付け施設となり、中学生用51施設、高校生用733人が参加しました。都立墨東病院での「一日看護体験学習」に同行しました。

墨東病院では、7月29日(水)に高校生6名、31日(金)に中学生5名が参加しました。オリエンテーションは会議室で行われ、看護師の仕事と心構えについての話に加え、体験学習の場となる墨東病院は周産期母子医療や精神科救急医療など、都の救急医療のセンター的機能も担っていることが説明されました。

2～3名ずつ1組になった参加者は、それぞれ異なった病棟で体験学習に臨みます。ナースステーションで看護師さんたちに紹介された後、実際に行われている申し送りを見学し、1日の仕事の流れについての説明を受けました。血圧測定、ストレッチャーや車椅子の操作、ベッドメーキングなども体験しました。病棟の雰囲気に慣れてきたところで、患者さんとのふれあいを体験しました。循環器病棟では高齢の患者さんの清拭、小児科ではおむつ交換、内科病棟では車椅子での検査室への患者さんの送迎などです。

看護師さんといっしょに病棟内を移動していると、患者さんが看護師さんに話しかけてこられました。看護師さんは気さくに応じ、参加者たちも会話に加わりました。患者さんとのコミュニケーションを実際に見聞できたことも、とてもよい体験になったようです。

総括では病棟の担当看護師さんを交え、体験したことを話し合いました。清拭を体験した参加者は、患者さんの感謝の言葉に感激したことを、小児科の参加者は赤ちゃんの笑顔に離れがたい思いを抱いたことを語りました。そして、こんな言葉も印象に残りました。「看護師さんたちは、皆ものすごく忙しそうだけれども、とてもイキイキしている」。指導にあたられた看護師さんたちの親身な対応も参加者の心に強く残ったことと思います。

アンケートの集計結果からは、参加者が看護を身近に感じるようになったことがうかがわれます。「一日看護体験学習」は今年度も実施が予定されています。ぜひ多くの中学生・高校生の皆さんに参加いただきたいと思います。

都立墨東病院の[一日看護体験学習]

●スケジュール●

13:30 ▶	集合 ▶ 着替え
13:45 ▶ 14:30	オリエンテーション
14:30 ▶ 16:30	看護体験学習
16:30 ▶ 17:00	総括
	着替え ▶ 解散

一日看護体験学習に参加して、看護に対する関心は変わりましたか

■中学生

■高校生

現時点での将来の進路をお聞かせください

■中学生

■高校生

求人・求職サイト「e-ナースセンター」ご利用のご案内（2009年4月にリニューアルいたしました）

登録について

URL https://www.nurse-center.net/ 画面にて、新規IDを申請される方からのご登録となります。

- 求人施設は施設所在地の都道府県ナースセンター（東京都の施設は、「ナースバンク東京」もしくは「ナースバンク立川」）にしか登録ができません。
- 求職者は希望する都道府県ナースセンターすべてに登録できます。

紹介状発行の手続き

1 e-ナースセンターご利用による紹介状依頼
（紹介状発行まで時間を要します）

紹介状依頼　●3日間猶予（除土日祭日）
相手先のMyページに紹介依頼ある旨表示
●相手先で回答
紹介状依頼者のMyページに結果表示
紹介状発行の有無
●無（紹介不成立）●有（紹介成立）→自宅で紹介状印刷
メール内容を確認、各自対応

2 ナースバンクに来所時の紹介状発行
（その場で相談員が即対応いたします）

紹介状依頼　●施設に連絡・確認（相談員）
紹介状発行（印刷）

※紹介状発行後の採否結果については、必ずナースバンクへ連絡してください。

平成22年度「ふれあいナースバンク」（再就職相談会）開催予定

（参加施設数:東京会場40施設　多摩地域会場15施設）

5月28日（金）	東京都ナースプラザ
6月4日（金）	京王プラザホテル八王子
7月23日（金）	東京都ナースプラザ
9月10日（金）	ナースバンク立川
9月17日（金）	東京都ナースプラザ
11月12日（金）	東京都ナースプラザ
11月19日（金）	ナースバンク立川
1月28日（金）	東京都ナースプラザ
2月4日（金）	ナースバンク立川

つれづれ……

これまでは、看護師の免許をいったん取得してしまえば、勉強してもしなくても誰からも何も言われなかった。しかし、平成21年7月の「保助看法」と「看護師等人材確保法」の改正によって、看護職は生涯にわたって学び続けることが義務化された。専門職の定義には"ゼミナールに行くこと"が含まれている。大学が看護職養成数の半分近くを担い、大学院も増えた現在では当然の帰結といえる。

この現実をどう受けとめるかについては個人差がありそうだ。看護職も本格的に専門職の仲間入りをしたとも解釈できる。（H・A）

●都内で2番目に多い街路樹／ハナミズキ●

表紙イラストの「ハナミズキ」はこんな樹木です。

ハナミズキが咲くのは4月下旬から5月上旬ごろ。春たけなわの歩道を白やピンクの愛らしい花で彩ります。日本に入ってきたのは、原産地のアメリカから1915年に贈られたのが最初です。

「ワシントンD.C.のサクラ」を知っている方は多いと思いますが、このサクラは1912年、当時の東京市（現在の東京23区）が贈りました。じつは、その返礼としてアメリカから贈られたのがハナミズキなのです。アメリカで国民的に親しまれている木で、アメリカ・ヤマボウシともいいます。ちなみに花言葉は、そのものずばりの「返礼」です。

ナースバンク東京 TEL03-3359-3388

ナースバンク立川 TEL042-529-7077

ACCESS

ナースバンク東京

- JR中央・総武線　飯田橋駅東口から徒歩7分
- 東京メトロ東西線・有楽町線・南北線　飯田橋駅　出口B1から徒歩6分
- 都営大江戸線　飯田橋駅　出口C1から徒歩5分
- 都営大江戸線　牛込神楽坂駅　出口A3から徒歩5分

ナースバンク立川

- JR中央線・青梅線・南武線　立川駅南口から徒歩10分
- 多摩都市モノレール線　立川南駅から徒歩8分

東京都ナースプラザ　検索

●ホームページ：http://www.np-tokyo.jp/
●E メ ー ル：np@np-tokyo.jp

TOKYO ナースプラザ やっぱり看護が好き Vol.51（3月・9月の年2回発行）
発行：東京都ナースプラザ　設置主体／東京都　運営受託者／社団法人東京都看護協会
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17 東京都看護協会会館1階　Tel 03-3359-3355　Fax 03-3260-9066
平成22年3月1日発行
再生紙を使用しています